冬の間息を潜めていた草木は、春の暖かな日差しを浴びて芽吹きます。その生命力あふれる姿は、じっと耐えていた息を吹き出しているかのようです。草木の芽吹きとともに色とりどりの花が春の到来を告げます。花は四季をとおし私たちを楽しませてくれますが、なかでもこの時期に咲く花は多いと言われています。春に咲く花が多いのはなぜでしょうか。

　ひとつめの理由は、夏の暑い時期は虫の活動が鈍くなるためです。花粉の運び手である虫は、春に活発に動きます。なので、花はその時期に咲いたほうが受粉には好都合となります。したがって春を選んで咲く花が多いのです。

ふたつめの理由は、競争を避けるためです。植物は光合成によって成長し、光が強ければ強いほど光合成量が高まるので、植物は本来夏が大好きです。そのため夏は植物同士の競争が激しくなります。春に咲く花はか弱く、この夏の競争に勝てそうもない植物たちなのです。